

本科2期9月度（Aターム）1回目

Z会東大進学教室/Z会京大進学教室【体験授業用教材（抜粋版）】

高2選抜東大クラス国語

高2東大国語メテウス

高2東大国語

高2東大・京大国語



目次

はじめに
14章 問題（演習）	「更級日記」
問題（自習）	「更級日記」
15章 問題（演習）	「蜻蛉日記」
問題（自習）	「蜻蛉日記」
16章 添削課題	「栄華物語」
問題（自習）	「栄華物語」
17章 問題（演習）	「韓詩外伝」
問題（自習）	「韓詩外伝」
18章 問題（演習）	「孟子」
問題（自習）	「孟子」
19章 問題（演習）	「列子」
問題（自習）	「列子」
20章 添削課題	伊東俊太郎「科学と現実」
問題（自習）	伊東俊太郎「科学と現実」
21章 問題（演習）	長尾真「『わかる』とは何か」
問題（自習）	長尾真「『わかる』とは何か」
22章 問題（演習）	三浦雅士「考える身体」
問題（自習）	三浦雅士「考える身体」
23章 問題（演習）	鷺田清一「悲鳴をあげる身体」
問題（自習）	鷺田清一「悲鳴をあげる身体」
24章 問題（演習）	「枕草子」
問題（自習）	「枕草子」
25章 問題（演習）	「紫式部日記」
問題（自習）	「紫式部日記」

23章	問題（演習）	『韓非子』	...
	問題（自習）	『雑説』	...
24章	添削課題	『無能子』	...
	問題（自習）	『文海披沙』	...
25章	問題（演習）	佐藤信夫『レトロ・ラック認識』	...
	問題（自習）	栗津則雄『解体と表現～現代文学論～』	...
26章	問題（演習）	竹沢尚一郎『宗教といふ技法』	...
	問題（自習）	石原吉郎『望郷と海』	...
付録	古文活用一覧		

はじめに

一 Z会の教室 国語の指導方針

国語で安定した得点をとるために、問題文の主題をとらえて正確に文章構造を見抜く読解力と、読解の結果を「解答」として採点者に正しく伝える言語運用能力を鍛える必要があります。

こうした学力の養成に向けて、国語科では「量」ではなく「質」を重視するというZ会の指導理念に則った指導を行います。むやみに多くの文章を読み流し、ひたすら多くの設問を解くのではなく、一つの文章にじっくりと取り組み、詳細な解説講義を行います。単にその問題をどう解くか、という観点にとどまらず、「同じテーマ・ジャンルの文章にはどのように対処するか」「このタイプの設問にはこうアプローチしていく」といった、他の問題にも応用可能な「考え方」を習得していくことを重視します。これにより、いかなる問題文が出題されても読解・解答できる力を養成します。

二 授業について

授業では「問題（演習）」もしくは「添削課題」を扱います。
「問題（自習）」は授業では扱わない、自習用の教材です。

予習

具体的な予習の方法は、受講開始後に担当講師から指示があります。以

下は初めてZ会の国語の授業を受ける方への、初回授業の予習の目安です。

まずは文章全体を通読し、中心となるテーマや物語の展開について、大まかな内容を把握します。次にもう一度じっくりと読み通し、より精密に文章の内容を把握していきます。この段階では、必要な箇所では辞書を丁寧に引いて、じっくりと一文一文の内容理解に努めます。最後まで読み通すことができたら、さらにもう一度文章を通読し、議論や物語の展開がしっかりと頭に入っているかを確認しましょう。

設問に関しては、あらかじめ完全に解答を作成してくる必要はありません。ただし、可能な範囲で、自分なりに選択肢を選び、また記述解答の骨格を作成してみるとよいでしょう。

※映像授業をご受講の皆様

授業時間内に演習（問題文を読み、設問を解くこと）に取り組むため、原則として予習は不要です。ただし、授業の内容をより効果的に理解するために、事前に問題文に目を通しておくとい場合があります。

・ 映像をご受講いただく前に、各講座のオリエンテーション映像をご覧ください。

授業内

解説授業を行います。「量」よりも「質」を重視しますので、授業では原則大問一題のみを扱います。問題文の丁寧な読解を通して、語彙の増強・論理構造の把握・文章の背景知識の伝授など、密度の濃い授業を行います。設問の解説では、問題文の正確な内容理解を土台に、選択式・記述式それぞれの設問についての正答に至るための考え方を確認していきます。選択式の問題では、どのように正解の選択肢を見極めていくか、記述式の問題では、設問の要求を見極めて解答を作成する手順を確認していきます。表現の細部にまで徹底的にこだわり、指定字数の長短に応じて、日本語として完結した正確な表現をまとめる訓練をします。

復習

まずは当日のうちに、授業での学習内容を振り返りながら、問題文をもう一度読み直しましょう。現代文では、文章の内容だけでなく、対比や例示といった「論理展開」も十分に意識しながら読み直しましょう。古文・漢文では、一つ一つの文について、意味の分からぬ語句が残っていないか、また文法的に理解があやふやなところがないかを確認しながら読み進めます。問題文を何度も音読してみることが効果的です。

設問については、「なぜそれが正解になるのか」「なぜこのような解答になるのか」を、他人にも説明できるくらいまで、解答に至る筋道を、本文中に根拠を求めながらもう一度確認しましょう。

授業で習得した読解・解答の方法を確認するため、自習用問題である「問題（自習）」にも取り組んでみましょう。

三 テキストの構成

● 問題（演習）

授業で扱う問題です。

● 添削課題

授業で扱う問題です。

添削課題の取り組み方については、スタッフ・講師からの指示もしくは受講マニュアルに従ってください。

● 問題（自習）

自宅学習用の問題です。原則として授業では扱いません。

● 付録

古典分野の読解に必要となる基礎知識を整理しています。

● 問題のレベルについて

問題のレベルを★の個数によって三段階で表します。

★：基礎 ★★：標準 ★★★：応用（発展）

なお、特別問題は選抜講座専用問題です。

問 題

【問題】（演習）★★

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

*ひじりなどすら、前の世のこと夢に見るは、いとかたかなるを、いとかう、あとはかないやうに、はかばかしからぬここちに、夢に見るやう、*清水の*礼堂にゐたれば、別当とおぼしき人出で来て、「⁽¹⁾そこは前の生に、この御寺の僧にてなむあり⁽²⁾」。仏師にて、仏をいと多く造りたてまつりし功德によりて、⁽³⁾ありし素性、まさりて人と生まれたるなり。この御堂の東におはする*丈六の仏は、⁽⁴⁾そこの造りたりしなり。⁽⁵⁾箔をおしさしてなくなりにしそ」と。「あないみじ。さは、あれに箔おしたてまつらむ」といへば、「なくなりにしかば、こと人箔おしてまつりて、こと人供養もしてし」と見てのち、清水に⁽⁶⁾ねむごろに参りつかうまつらましかば、前の世にその御寺に仏念じ申しけむ力に、⁽⁷⁾おのづからようもやあらまし。いといふかひなく、詣でつかうまつることもなくてやみにき。

（『更級日記』）

*ひじり||高僧。僧侶一般にもいう。
*清水||京都市東山区の清水寺。觀音の靈場。
*礼堂||本尊を礼拝するための堂。
*丈六の仏||一丈六尺(約五メートル)の仏像。

問1 傍線部(1)(4)の「そこ」は同じものをさすが、それは誰か。もつとも適當と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A ひじり B 僧 C 仏 D こと人 E 別当 F この文章の作者

問2 空欄(2)に入れるのにもつとも適當と思う助動詞を示しなさい。

問3 傍線部(3)の解釈としてもつとも適當と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 前に述べたような事柄が増して
B 前の世の家柄よりすぐれて
C 例の育ちよりもはるかに越えて
D 昔の性質がすっかり變つて

問4 傍線部(5)の解釈としてもつとも適當と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 金箔を貼しているうちに足りなくなってしまったのだ。
B 金箔を貼りかけて途中でなくなってしまったのだ。
C 箔をつけ世間に認められてなくなってしまったのだ。
D 別の人に箔を押しつけてなくなってしまったのだ。

問5 傍線部(6)の解釈としてもつとも適當と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 気をくばって奉公させていただくことができれば
B むつまじく参拝しあそばで働くことができたなら
C 親しく伺つてお仕えしていたのだつたら
D 心をこめて参詣しご供養をしたならば

問6 傍線部(7)を平易な現代語に改めなさい。

次の文章は、作者の姉が亡くなり、法要なども過ぎて、姉の求めていた物語が届けられて、新たな涙にくれ、更に姉の乳母が実家に帰るにつけての贈答歌の一節です。これを読んで後の設問に答えよ。

その五月のついたちに、姉なる人、^{*}子うみて亡くなりぬ。よそのことだに、幼なくよりいみじくあはれと思ひわたるに、まして言はむかたなく、あはれ悲しと思ひ歎か⁽¹⁾る。母などは皆亡くなりたる方にあるに、形見にとまりたる幼なき人々を左右に臥せたるに、荒れたる板屋のひまより月のもり来て、児の顔にあたりたるが、いと⁽¹⁾ゆゆしくおぼゆれば、袖をうちおほひて、いま一人をもかき寄せて、思ふぞいみじきや。

そのほど過ぎて、親族なる人のもとより「昔の人の、『かならずもとめておこせよ』とありしかば、もとめしに、そのをりは、え見出でずなりに⁽²⁾しを、今しも人のおこせたるが、あはれに悲しき」とて、^{*}かばねたづぬる富といふ物語をおこせたり。まことにぞあはれるや。返り⁽³⁾ごとに、

うづもれ⁽³⁾ぬかばねを何にたづね⁽⁴⁾けむ苦の下には身こそなり

乳母なりし人、「今は何につけてか」など、泣く泣く、もとありける所に帰りわたるに、

「ふるさとにかくこそ人は帰りけれ^(a)あはれいかなる別れなりけむ

⁽²⁾昔の形見には、いかでとなむ思ふなどと言ひやりたる返り⁽³⁾ごとに、

A

*子うみて亡くなりぬ⁽¹⁾作者の姉は二

*人目の出産で死去した。

かばねたづぬる宮といふ物語⁽²⁾散逸

*物語。
慰さむる⁽³⁾の歌⁽⁴⁾「かた」は「干渴」と「方法」「なきさ」は「満」と「無き」を掛けている。

* 慰さむるかたもなきさの(3)浜千鳥(6)なにかうき世に跡もとどめむ

(『更級日記』)

問1 傍線部①～④の文法的意味を記しなさい。

問2 傍線部(a)・(b)の解釈について、適當なものを次のの中からそれぞれ選びなさい。

(a) A ああ何というあなたとの別れは悲しいものなのでしょうか。

B ああこれをいかなる悲しい別れにたとえることができましょう。

C ああ何という姉との悲しい死別であったのでしょうか。

D ああどのようなさだめによるあなたとの別れなのでしょうか。

(b) A どうかしてこの憂き世にも生きながらえたいものです。

B あれこれとつらいこの世にもとどまることができるでしようか。

C なんだつてつらいこの世に生きながらえていくのでしょう。

D どうしてこのつらい悲しい家にとどまることができましょうか。

問3 傍線部(1)「ゆゆしく」と同じ意味の用例に該当するものを次のの中から選びなさい。

A 大社をうつしてめでたく造れり。おのの拝みて、ゆゆしく信起したり。

B 天の下はさながら大殿の御心のままなれば、いとゆゆしくなむ。

C 光頼卿、信頼の座上に着かせられし時は、さしもゆゆしく見え給ひき。

D 道にて雨もや降らむ、神もや鳴りまさらむと思ふに、いとゆゆしく悲しくて、仮に申しつればにやあらむ
晴れたり。

問4 空欄Aに入るべきものを次のの中から選びなさい。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| A める | B めり | C たり | D たる |
| E ける | F けれ | G つる | H けむ |

問5 傍線部(2)の「昔の形見」とは誰を指しますか。文中の語で記しなさい。

問6 傍線部(3)の「浜千鳥」は誰をたとえていますか。文中の語で記しなさい。

体験授業をご受講いただく皆さんへ

体験授業をお申し込みいただきありがとうございます。

Z会の教室の授業は、学力を効果的に上げていくためのカリキュラム・内容となっております。

次回以降もぜひ継続して受講することをおすすめします。

《体験授業後の流れ》

お申し込み方法

引き続き継続して受講される場合は、各教室窓口・お電話でお申し込みが可能です。
※体験授業終了直後に窓口で申し込んでお帰りになることもできます。
※認定が必要な講座をご希望の方はテストを受験していただく場合があります。
※予習が必要な講座は次回までの予習がありますので、余裕を持ってお申し込みください。
※本科授業は、「**クラス授業**」「**映像授業**」が選べます。
※映像授業の体験も承ります。一部の講座では映像授業のご用意がありません。
予めご了承ください。

通話料 無料 0120-2828-76 月曜日～土曜日 12:00～20:00
(休室日を除く)

各教室電話番号	御茶ノ水教室	03-5296-2828	池袋教室	03-5985-2828
月曜日～土曜日 14:00～21:00 (休室日を除く)	渋谷教室	03-5774-2828	横浜教室	045-313-2828
	新宿教室	03-5304-2828	葛西教室	03-5878-0844

お申し込み後の流れ

お申し込みから1週間以内に手続書類
(入会書類、お支払いについて、会員証
など)をお送りします。

※受講料のお支払い期日が次回授業よりも後の場
合でも、次回授業へのご参加は可能です。

※体験授業後にご受講いただく場合、「Z会の教室」
では「月度」単位で受講料を請求させていただいて
いるため、体験授業分も受講料をご請求する場合
があります。くわしくは教室スタッフまでお問い合わせ
ください。

お申し込み後、テキストを各教室窓口に
てお受け取りください。

※葛西教室にて高1・高2講座・受験講座、
Z会進学教室大学受験部立川教室にて高1・高2・受験生講座を開講しております。

講座選択に迷ったら…

学習相談は隨時承っています。お電話でのご相談も可能です。

受講に際して不明点、不安な点がある方は、各教室の窓口、または上記番号までお気軽にお問い合わせください。

Z会の教室の受講サポート 一萬全のシステムで効果的な学習をサポートします！

1. 講師への質問

授業前後の時間や休み時間を利用して、担当講師に
直接質問をすることができます。
疑問点をそのままにすることなく、その場で解消す
ことができます。

2. 振替受講

本科のクラス授業で欠席する回の授業を、同一週・同
一講座の他のクラスで振替受講することができます。
他教室への振替、映像授業（教室・自宅での受講）へ
の振替も可能です。前日までに各教室窓口、お電話に
てお申し出下さい。

※振替手続は一週前の月曜から可能です。

3. 進路・学習・入試相談

各教室の学習アドバイザーが皆さんのご相談を随时
承っています。

4. 自習室

本科生の方は休室日を除いて、全教室の自習室をい
つでもご利用いただけます。